

主催者挨拶

皆様こんにちは。公益財団法人日本海事センター会長の宿利正史でございます。

第29回海事立国フォーラムの開催に当たり、ご挨拶を申し上げます。

まず、本日の海事立国フォーラムにつきましては、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、会場への参加人数を絞るとともに、YouTubeでの同時中継配信を併用して開催しております。この会場には、現在定員いっぱいの多くの皆様にご参加いただいております、また、YouTubeでも国内外を問わず多くの皆様からご視聴いただけることと期待しております。誠に有難うございます。

さて、昨今の世界の状況を見ますと、新型コロナウイルスのパンデミックを契機として、かつてないほどグローバル・サプライチェーンへの注目が高まっています。国際海上輸送においては、需要の拡大に対して供給が追いつかない状態が続いており、このためコンテナ船の運賃が高騰するなど、まさに世界的な物流危機とも言える状況にあります。

一方、本年3月にはスエズ運河における大型コンテナ船の座礁事故に起因して、400隻を超える船舶が足止めになり、また、米中の対立も我が国の貿易に大きな影響を与えています。

このような、変化が激しく、不確実性の高い国際情勢の中で、日本の海運がさらなる前進と発展を成し遂げるためには、山積する重要課題のそれぞれに対し、産官学が今まで以上に連携・協働して、積極的かつ着実な取組を戦略的に進めていくことが重要であると考えています。

とくに、海運業界が取り組むべき重要課題の一つである気候変動対策につきましては、IMOが国際海運からのGHGの排出量を2050年までに2008年比で50%削減するという意欲的な目標を掲げており、海運業界全体として本格

的な取組が必須の状況です。

また、船舶運航の安全性の向上や船員の労働環境の改善の観点から、自動運航船をはじめとする海事イノベーションへの取組が期待されており、さらに、クリーンエネルギーの中核的存在と見込まれている洋上風力発電など新たな事業への積極的な取組も期待されています。

加えて、厳しい国際競争の中で、海運業、造船業をはじめ我が国の海事産業の国際競争力の強化を図っていくこと、また、優秀な海事人材を計画的に確保・育成していくことは、海洋国家・海事立国である我が国の経済安全保障上も極めて重要であります。

このような状況を踏まえ、本日の海事立国フォーラムでは、「流動化する国際情勢等の中での今後の外航海運の展望」というテーマについて、産学官を代表する皆様によるパネルディスカッションを中心に開催することとした次第です。

モデレーターには一橋大学名誉教授の杉山先生、パネリストには日本船主協会の池田会長、早稲田大学法学学術院教授の河野（かわの）先生、そして国土交通省海事局の高橋局長をお迎えし、活発なご発表やご発言をお願いしたいと思っております。

パネルディスカッションの具体的なテーマとしましては、最初に「国際情勢の流動化、新型コロナウイルスのパンデミック等で大きく変貌している外航海運」について、次に「今後の外航海運が抱える主要課題」として①「環境問題」について、②「海事イノベーションの推進」について、③「安定的な国際海上輸送の確保、海事人材の確保・育成」について、そして最後に「外航海運の将来展望」について、ご発表や意見交換を予定しています。

また、フォーラムの後半では、近年急速な経済成長を遂げ、日本との結びつきを強め、海運業も大きく発展しているベトナムに関して、当センターのチャン専門調査員から「ベトナムの海運事情」と題して報告いたします。

その後で、ベトナムの海運事情に精通しておられる羽原（はばら）神戸大学客員教授から、コメントをいただく予定です。

本日の海事立国フォーラムが、ご参加いただいております、また、ご視聴いただいております多くの皆様方にとりまして真に有益なものとなりますことを期待いたしまして、私の冒頭の挨拶といたします。

本日は、ご参加いただき誠にありがとうございます。